



『早稲田大学所沢校地B地区 屋上緑化・植栽方針』

【平成26年3月31日】

早稲田大学

早稲田大学所沢校地B地区は、狭山丘陵最大規模の湿地が現存することや敷地全域が県立狭山自然公園内に位置する豊かな自然環境に恵まれていることから、これまでに「早稲田大学所沢校地B地区 湿地環境管理方針」および「早稲田大学所沢校地B地区回復緑地植栽計画方針」が策定され、生物多様性や景観に最大限配慮した校地の建設計画が進められてきた。

研究棟上部の屋上についても、オオタカ保護対策や周辺の丘陵地景観との調和等の観点から緑化・植栽が取り組まれてきたが、一定期間を経て近年の気象条件等の要因に基づく生育状況の不安定化が顕著な現状がモニタリングにより明らかになっている。そうした背景を踏まえ、これまでに策定されている上記の方針との整合の基に、屋上緑化を改めて推進するうえで留意すべき事項を、以下の屋上緑化・植栽方針としてまとめ、植栽管理計画の検討・実施に取り組んでいくものとする。

1. 屋上は、人工基盤の上部と言う特殊な立地条件下にあることから、植生の定着と持続的・安定的な生育のためには、対象箇所の土壌・水・光・風等の前提となる環境要素を十分把握し、その環境特性に応じた生育可能な植栽植物の選定を行う。
2. 植栽種の検討に際しては、周囲の狭山丘陵に自生し景観的にも違和感の生じない在来種・郷土種の中から生育条件の適した植物を用いることを原則とし、昆虫や野鳥等の生物多様性機能の改善にも留意した植栽内容とする。
3. 植栽内容は、可能な限り多様な植生タイプの成立を目標とする一方で、人為的な管理を最大限に軽減することが望まれることから、これまでの屋上緑化実績を踏まえ、植生の定着・管理が可能と考えられる「草本エリア」と「低木エリア」を設定し、ふさわしい在来植物の選定と望ましい配置を行う。また、気象条件の変化が顕著になりつつある現状等も考慮し、当初段階で必要となる箇所の全てについて再植栽を実施するのではなく、試験植栽を行いモニタリング結果を反映させる順応的・段階的な取り組みとして進めるものとする。

※「平成25年度第2回早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会」（平成26年3月31日）にて策定